令和4年度

国際バカロレア特別入試（11 月募集 4 月入学）

【　人間学群　心理学類】

区　分	出題意図・正解例
「小論文」問題	1. 問題文の選定・出題理由 問題文（英文）は、2021 年に、米国心理学会の公式雑誌である“*Monitor on Psychology (Web 版)*”に掲載された Weir、 K. による“Raising anti-racist children”から一部を抜粋・改変したものである。問題文では、人種について幼い子どもが学ぶ過程について取り上げ、「どのように反人種差別主義者として子どもを育てるか」について、心理学を専門としない読者を想定して平易に解説されている。人種差別に関する多くの記事では、「どのようにして、人種差別をしない子どもに育てるか」のみに焦点が当てられているが、本記事では、「人種差別に直面する可能性に備えて、どのように子どもを育てるか」という視点を含めて丁寧に解説されている。このような点で、心理学に関心をもつ受験生にとって内容的にも有益な題材であり、英文の難易度も適切であると判断し、選定した。 問１は、問題文で重要な概念となる、「人種・民族の社会化」過程に触れながら、下線部①を日本語へ適切に訳すことができるかどうかを問う問題である。 問２は、下線部②について、説明がなされている箇所の内容を正確に理解しながら、日本語で適切にまとめられるかを問う問題である。 問３は、問題文全体を理解した上で、自分の意見を適切に述べることができるかどうかを問う問題である。本文では、自分の子どもと対話する際、文化を社会化することや、人種的遺産と誇りについてのメッセージを織り交ぜて偏見への準備をすることの重要性と同時に、実際に偏見や差別に直面した養育者に対する支援の必要性が指摘されている。この点を踏まえ、自分の体験や知識に基づき、適切に論述できるかどうかが問われる。 2. （１）試験時間は２時間で、辞書の持ち込みは許されていない。 （２）問題は問１から問３までである。英文を題材として、文章の理解と理解した内容に関する自分の考えを論述する能力を問う問題である。 問１　下線部①を日本語に訳しなさい。 （１）下線部①の英文を適切に訳出できていること。“say that...”といった関係代名詞の適切な理解や、“dismantling”のような、頻出単語ではない単語の意味を文脈から適切に推測することが求められる。 ＜解答例＞ 白人を含む全ての子どもたちは、人種・民族の社会化として知られる

	過程を通じて人種について学ぶが、学者たちは、人種差別をなくすために、社会化をより目的的に扱うことが必要だと言う。(87 字) 問２　下線部②における、"four aspects of racial-ethnic socialization" はどのようなことか、 200 字以内で説明しなさい。 （１）第１段落に記述されている内容を理解した上で、第 2、第 3、第 4 段落で記述された内容を踏まえ、人種・民族の社会化における 4 つの側面について適切に説明し、制限字数内で要約することが求められる。 （２）文化的社会化について、人種についての誇りと、遺産という、両側面についてのメッセージを含むということが記述されていること。 （３）偏見への準備について、差別そのものについて議論するだけでなく、どのように対処するか議論する、ということが記述されていること。 （４）不信感の促進について、他の人種集団だけでなく、人種環境についても警戒心を抱く、ということが記述されていること。 （５）人類平等主義について、我々は一つの人類、という集団である、という考えであることが記述されていること。 （６）全体の完成度や適切性について。 ＜解答例＞ 　人種・民族の社会化における４つの側面は、第１に、人種的誇りや遺産についてのメッセージ、という文化的社会化である。第２に、差別そのものや、差別にどう対処するか、について議論する、という偏見への準備である。第３に、他の人種集団や環境に警戒心を抱くよう、子どもたちに教える、という不信感の促進である。第４に、人種についての議論を避け、人種集団の一員であることよりも、個人の資質を重視する人類平等主義である。(200 字) 問３　本文を踏まえて、人種差別や偏見に直面する危険に対する準備として、どのような家庭での教育が必要かを考え、600 字以内で説明しなさい。 （１）本文で示された内容、つまり、文化的社会化が様々な背景を有する子どもにとって、ポジティブな結果をもたらすことや、人種的な誇りと偏見への準備についてのメッセージを合わせて伝えることが良いこと、不信感を促進するだけでは不十分で、どのように対処するかを一緒に議論する必要のあること、などを理解したうえで、自分の体験や知識に基づき、人種差別や偏見に直面する危険に対する準備としての家庭での教育について、論理的に記述されていること。 （２）著者の考えが理解されているか。 （３）解答者の意見が明確に述べられているか。 （４）文章はわかりやすく、論理的で明晰か。 （５）独創性（ユニークさ）が認められるか。

	＜解答例＞ 人種差別や偏見に直面する危険に対する準備として必要な家庭での教育について、説明する。私が考える教育では、子どもと一緒に、保護者も学ぶことを重要視する。また、人種差別に限らず、様々な差別について同時に教育する。具体的な方法としては、実際のエピソードを基に、様々な人種の、様々な経済環境、様々な性的アイデンティティ、様々な疾患・発達障害を有する、同世代の日常的な１日を描いた、短い映像作品をシリーズ化し、各家庭で視聴できるよう、動画共有サイトで公開する。同時に、偏見に直面した際の対応方法についての具体例を冊子として、各家庭へ配布する。学校は「多様性月間」と呼ばれる期間を設定し、期間中、各家庭で動画を視聴し、リーフレットを読み、その内容について議論することを、授業の一環として各生徒に課す。家庭で実施することにより、生徒だけでなく保護者自身も、これまで気付いていなかった様々なマイノリティについて学習する。人種差別に加え、貧困、ジェンダー、性的マイノリティ、疾患・発達障害に対する偏見とその対応法について学ぶことにより、親子ともに、自身の属性によって受ける差別から身を守ることを学ぶだけでなく、自身が差別的振る舞いをしないことも学ぶ。また、学校は動画視聴に伴いフラッシュバック等が発生したときの対応として、各種クリニックや支援団体を即座に照会する体制を整えておき、生徒や保護者の心理的安全を確保する。 （599 字）